

# 平成29年度 第2回 池田市総合教育会議 議事録

日 時：平成29年9月25日（月）午後3時30分～午後4時45分

会 場：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：倉田市長、田渕教育長、山岸委員、河野委員、小林委員、木村委員  
＜事務局＞

16人

傍聴者：0人

## 1. 開会の挨拶

＜市 長＞

- ・平成29年度第2回目の総合教育会議は、7月8日の開催を予定していたが、ご承知の通り台風5号の影響により延期、今日の開催となった次第。
- ・制度的に総合教育会議が義務付けられて9回目の開催であり、教育日本一をめざして幅広い観点からご理解・ご支援とご意見を賜っていることにお礼申し上げたい。
- ・「教育日本一」池田の冊子の見本を、教育政策課長を中心に教育委員会事務局が作成している。配布については来年度になると思うが、もう一度詰める機会を設けたらどうかと考えている。
- ・盛りだくさんの内容なので、忌憚のないご意見を賜りますようお願いしたい。

## 2. 議事

### （1）平成28・29年度教育施策・予算の振り返り・進捗について

○事務局（教職員課、教育政策課、学校教育推進課、教育センター）より説明。

- ・「義務教育スタートサポート事業 35人学級の4年生への拡大」は、今年度5校（池田・秦野、北豊島、呉服、五月丘小学校）で実施。効果について、学校長より聞き取りを行ったところ、「落ち着かない児童に対してよりきめ細やかな指導ができる」「人数が少ないことにより一人ひとりに目が行き届き、気になる子どもをいち早く見つけ対応することができる」「個別対応がしやすい」など高評価をいただいている。今後35人学級編成の効果検証を踏まえた上で、更なる拡充について検討してまいりたい。
- ・「ほそごう学園活性化事業」では、今年度設置された学校運営協議会が4、6、9月と3回開催され、地域とのつながりについて一定整理し組織的な取り組みにしていこうとしているところ。特認校制度について、今年度小・中合わせて5人の子どもたちが活用しており、保護者からは「通わせてよかった」との感想をいただいている。さらに、関西ゴルフ連盟の協力を得て、ゴルフ体験学習を実施しており、授業として5年生以上の全ての児童・生徒が体験している。2学期には伏尾ゴルフ倶楽部の協力もいただく予定。
- ・「ソフトバンクとの連携による部活動支援」は、インターネットを介してアスリートから指導を受けるもので、今後元全日本選手山本隆弘氏の指導を受けるバレーボール部をはじめとして、陸上部、野球部、テニス部、バスケットボール部、サッカー部が指導を受ける。
- ・「学園公用車の配備」について、市内中学校区に1台ずつ配置し、物品運搬や病院搬送等に使用している。
- ・子どもたちの学力向上と家庭学習支援を目的とした中学生対象の「池田ふくまる はばたき

塾」は、受講希望者全員を無償で受け入れており、今年度は全中学生の11.6%、9人に1人の中学生が受講している。また、今年度は新たに小学校5・6年生を対象に外国人英語講師による英語アクティビティを無償で提供する「はばたき イングリッシュ」を開設し、106人の申し込みがあった。第1回実施後のアンケートでは、「もっと英語を学びたい」という児童が93%にのぼり、英語に興味・関心を持つ児童が多いことが再確認できた。今後は月1回、合計7回開催する予定。

- ・「英語を「使える」池田の子どもたちの育成」では、「聴く」「話す」「読む」「書く」の英語の4技能を測定する「GTEC」を用いて英語の授業改善をめざす。また、ほそごう学園では小学校6年生～中学校3年生を対象にインターネットでフィリピンとつないだ OST（オンライン英会話トレーニング）を7月より実施、現在までに3回実施している。
- ・「幼・小・中学校指導者派遣事業」は昨年度より実施しており、今年度は幼稚園まで拡充している。幼稚園とこども園ではリトミック・体育・絵画などの指導を充実させたほか、細郷小学校で放課後イングリッシュ、五月丘小学校でKTV コーチによる水泳指導、北豊島中学校で大学生による学習支援などを実施しているところ。
- ・「小学校低学年サポートコーディネーターの配置」は、小学校低学年の生活や学習をスムーズに進めること、幼小連携を推進することを目的に、経験豊富な退職校長をコーディネーターとして小学校3校に配置し、低学年児童や先生方の支援にあたっているところ。
- ・「電子黒板の効果的な活用による授業の改革」では、2学期以降、全小・中学校の普通教室に電子黒板を配置。今後は算数や国語のデジタル教科書、英語のDVD教材、さまざまな映像教材を授業で活用するための研修並びに授業研究を実施することで、ICT機器を使える子ども、ICT機器を通じて学ぶ子ども、ICT機器を効果的に活用する教職員の育成をめざす。
- ・「幼稚園通級指導教室の開設」では、昨年度あおぞら幼稚園に開設し、今年度はあおぞら幼稚園に加えて、ひかり幼稚園に教室を新設。また発達支援課と連携し、私立幼稚園の配慮園児も対象に指導を進めているところ。
- ・「いじめ・不登校等トータルサポート事業」では、いじめや不登校の防止、早期対応のために配置してきた外部人材の名称を「スクールアシストメイト」と改め、全小・中学校に配置し、子どものサインを早期発見するための観察や相談室登校児童への対応を行っているところ。
- ・文部科学省の「子どもみんなプロジェクト事業」は、いじめや不登校などの子どもの課題を心の発達の視点から解決するために、小・中学校に対して基本調査を行い、分析してもらった結果をもとに、教員向けの研修や児童生徒向けにプログラムを実施する予定。
- ・「普通教室への大型電子黒板の整備」では、小学校に125台、中学校に68台の計193台を整備完了しているところ。
- ・「ペッパーによるプログラミング教育」では、現在小・中学校に100台導入されており、先行導入を行った石橋小学校をはじめ、他の小学校でも授業が始まっている。子どもたちからは、「少し難しいが、自分がプログラミングしたとおり、ペッパーが動いたり喋ったりするのが嬉しかった」との声や、保護者からも期待の声をいただいている。

#### <市長>

- ・平成28年度で5,000万円、平成29年度はそれにプラス5,000万円、平成27年度から見ると、1億円の教育予算を投入して取り組んでいる事業が、どの程度成果を上げてい

るのかご報告いただいた。これまでのところで、ご質問・ご意見をいただきたい。

< 委 員 >

- ・積極的にご活動いただいていると認識している。
- ・予算にも限りがあるので、スクラップ&ビルドを考えなければならない。
- ・成果や評価を数字で表すことは難しく、子どもたちがどのように受け止めて喜んでくれているかが最終的な成果となるかもしれないが、子どもたちのほかに、校長先生や保護者の方がどのように受け止めているかは今後事業を進めていく上で重要な指標になるのではないかと。また、校長先生や保護者の声などが具体的に含まれてくると、理解がしやすく、スクラップ&ビルドを考える際の参考になるのではないかと。

< 委 員 >

- ・学校は子どもたちが社会に出て行くための準備をする場所なので、子どもたちが何をしたいのか、何になりたいのか、そのために何を学ばばいいのかが重要となる。その中で、社会や地域とのつながりなどから、自分たちがなりたいものや憧れを見つけ、何を学ばばそこに向かっていけるのかというのを見つけていければ良いと思う。
- ・教育日本一のまちをめざし、先駆けてプログラミングなどを進めているので、市として対外的にアピールしていくべき。

< 委 員 >

- ・AI が活躍する時代が来るので、避けては通れない ICT への慣れが大変重要な時代になってきており、プログラミング授業などに期待している。
- ・成績や体力などみんながひとつの線に並んでいる必要はなく、個性を伸ばしていくことも重要。
- ・小中一貫校に関して、どのような形で評価するのか。成績や体力は数値として表しやすいが、発達障がいの子どもは10人に1人いるのではないかとされており、発達障がいの子どもたちのサポートも小中一貫校の中で大きなウェイトを占めていると思うので、重要視していただきたい。
- ・学業に関して、はばたき塾の対象を中学生から小学生まで勉学の門戸を広げており、また経済状況に関係なく子どもたちに教育環境を提供していることは大変評価できる。

< 委 員 >

- ・ほそごう学園のゴルフ体験学習を通じて、ゴルフの得意な子どもがでてくるなど、何かに秀でた子どもを見つける、または育てることを考えても良いのではないかと。
- ・英語が必要な場面が多くなってきている中で、GTEC の活用やほそごう学園のスカイプでの英会話の実施は、英語に興味を持ってもらえる取り組みであると感じている。また、中学生になって初めて英語を学び苦手意識を持つ子どもも多いと思うが、はばたきイングリッシュのように遊び的なところから英語に触れることは、もっと英語を話せるようになりたいという動機づけになるのではないかと期待している。

## <教育長>

- ・英語の充実や課題の支援、平成32年度から小学校で実施される新たな学習指導要領で謳われているような今後の教育を見据えた授業に力を入れていきたいと考えている。
- ・小中一貫教育の評価について、当初は子どもの学力向上、それぞれの子どもたちが持つ課題に対して9年間一貫した支援を充実させていくことをめざしてきたが、当初の目的に沿った一定の評価をする時期がきていると感じている。

## <市長>

- ・全小・中学校への電子黒板の導入が大阪府内または北摂で他に何市あるのかなど、数字で把握し、活用していくことが重要。
- ・ペッパー100台の配置は大阪府では池田市のみ。
- ・発達障がいについて、池田市の出現率は何%か。12%、18%といった説があるが、検証が必要。
- ・スマイルファクトリーの現状については、利用者が30人弱であり、高校生も利用しているとのこと。教育機会確保法も施行し、スマイルファクトリーへの視察が増えており、スタッフが不足気味とも聞いているが、本市としても通っている池田市民の率など数字で把握し、分析し、評価することが重要。
- ・校長先生の声、保護者の方が報告で上がったが、現場の先生がどのように評価しているか、保護者がどのように評価しているか、子どもたち自身がどう体感しているのか把握することが重要。
- ・子どもたちに職業体験をさせる池田青年会議所主催のキッズJOBでは、200人くらいの子どもたちが参加し、13種類の中から5つの職業を選び30分ずつ体験していたが、子どもたちはさまざまなことにチャレンジしたがついていない。現在テーマパーク構想の中で、キッズニアを栄町商店街でしたらどうかという構想がある。
- ・現場の先生方やPTAにも「教育日本一」が浸透してきたと感じるが、財源には限りがあるので、スクラップ&ビルドしながら、必要でない事業と必要な事業を見分けていかなければならない。
- ・池田市の財政状況は、平成28年度予算では本来財政調整基金を15億5千万円取り崩して歳入歳出のバランスを合わせていたが、平成28年度決算では、取り崩しはなくプラス9億5千万円黒字になり、平成28年度だけで25億円の財政効果を生み出すことができた結果、財政調整基金残高も瞬間的にだが50億円を超えたところ。
- ・平成29年度の財政状況も良く、平成29年度は、池田市全体の法人市民税の収入見込みが9億8千万円だが、大手自動車製造業だけでそれを上回りそうなので、法人市民税は予算にして10億円くらい増える見込み。歳出を抑えることができると、財政調整基金の取り崩しが少ない状況で黒字を生み出すような財政運営にできるのではないかと。
- ・平成30年度も、教育に5,000万円上積みする。

## (2) 平成30年度教育政策の展望について

○事務局（教育部長）より説明。

- ・現在の取り組みに加えて、新たに新規・拡充する事業案について説明する。あくまで検討段

階であるので、予算作成までにさらにプランを修正していき、最終的に予算額に合わせて取捨選択していく予定。

- ・ほそごう学園で取り組んでいる OST（オンライン英会話トレーニング）を、市内全小・中学校で実施。
- ・35人学級の拡大では、5・6年生まで拡大し、市立小学校における35人学級完全実施を検討。
- ・指導者派遣事業の拡大では、実技教科やクラブ活動において専門的な指導者を派遣して、児童・生徒の技術向上並びに教員の負担軽減を図る。
- ・はばたきイングリッシュの拡大では、月1回から回数を増やし、夏休みを利用したイングリッシュキャンプなど内容の充実を検討。
- ・新たな取り組みとして、就学前3歳～5歳を対象とした音楽・ダンス・リトミック・体操・お絵かきなどの教室の設置を検討。ほとんどの子どもたちが市立小学校に入学してくるので、その子どもたちが同じ経験・学びをしていることは大変意義深いものと考え、本事業を検討しているところ。
- ・各学校で単発的に取り組んできた赤ちゃん先生・笑育・陸上教室などの出前講座を積極的に活用できるような予算を計上できないか検討。
- ・イングリッシュ・ビレッジへの小・中学生の全員参加では、吹田の万博公園内のオールイングリッシュの生活体験型施設を市内小・中学生が定期的に校外学習などで利用できるような事業の実施を検討。
- ・ICT環境の充実では、本年度予算で整備した電子黒板をより効果的・積極的に活用できるように、周辺機器やデジタル教材を充実させていきたいと考えている。
- ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの充実では、現在各校に配置しているが、より配置人数や配置日数を充実させる。

#### <委員>

- ・OST（オンライン英会話トレーニング）の実施やはばたきイングリッシュ、イングリッシュ・ビレッジなどの英語の充実が良いと感じている。
- ・就学前は大事な時期であり、幼稚園・保育園などの違うところに通っている児童が就学前に同じ体験をするというのは効果的。
- ・ICT環境は、全小・中学校にデジタル黒板が導入されているので積極的に活用してほしい。
- ・底上げはしっかりしていただいているので、何か秀でた人を見つけられるような取り組みがあっても良いのでは。他市がやっていないことをすることは市としてPRしやすいので、取り組んでほしい。

#### <委員>

- ・今後、池田の子どもたちの英語が強くなることを期待している。
- ・就学前の子どもをサポート体制も良いと思う。ぜひ、池田の教育に向ける取り組みを市外へ発信していくことを考えてほしい。

#### <委員>

- ・拡充について、指導者派遣などの活用は、先生方の助けになるのではないかと考えている。
- ・新規について、ICT 環境の充実ではタブレットが現在は2人に1台ということなので、1人に1台になれば、より充実するのではないかと考えている。
- ・ソーシャルワーカーの充実について、活用する方が使いにくい、少ないのであれば残念なので、どうすれば活躍できるようになるか考えてほしい。相談したい人を待っているだけでなく、こちらからアプローチしていく形があれば、届くのではないかと考えている。

#### <委員>

- ・英語と情報化対応に力を入れていることは、重要なことと感じている。
- ・ICTになると、指導者も重要。ICT を日常生活で使いこなすことと、ICT に長けた人になるというのでは観点が違うので、その辺も含めてどのように教育するかを考えてほしい。
- ・少子化・格差社会の中で、やる気のある人を引き上げて、社会に貢献できるようにすることが非常に重要なことだと感じている。

#### <市長>

- ・底上げも大事だが、秀でているものを伸ばしてあげることも大事。
- ・委託している株式会社トライと成果について協議した。去年は教室の中のバランスが乱れたり、途中でリタイアする子どももいたが、今年は親子面談を実施しているので、やる気のある子が多くリタイアもない。また、入試対策に近いこととはばたき塾でやりましょうという話があり、3年生の進学状況にどの程度の成果を現すか楽しみなところ。
- ・総予算はどれくらいか。

#### <教育長>

- ・ポイントになる部分として、1つ目はグローバル化に対応するための英語力の向上と情報化に対応するための ICT の充実。例えば、教育 Wi-Fi と地域との連携が図れないか。防災分野にも拡げられると考える。2つ目は、就学前と低学年の接続について、子ども・子育て支援日本一と教育日本一の連携できる部分。教育が市立幼稚園だけでなく、こども園・保育所などと市立小学校とでどのように連携していけるかが重要。
- ・総予算については、5,000万円ですとまとめていきたい。

#### <副市長>

- ・教育委員の先生方や教育委員会事務局の考えを実現していきたい。
- ・当初より1億5,000万円積み上げてきたので、その成果を数字も含めて議会や市民などに示していかなければならない。限られた財政の中で知恵を出してより充実した内容にしていきたい。

#### <市長>

- ・ICT は指導者負担の問題がある。ペッパーも全校に配置するつもりだったが、当初は半分しか手が挙がらなかった。理由は、どの先生がどのように教えるのか不安があったため。クラ

ブ活動も含めて不安のないようにサポートする体制づくりが重要。

- ・「教育日本一に」に向けた取り組みに対する説明責任を求められる時期は必ずくると思うので、検証を行い、スクラップ&ビルドをしなければならないが、少なくとも4年間で2億円は積み上げていきたいと考えている。
- ・教育委員の先生にも予算提案権を持っていただいても良いのではないかと。教育委員会事務局は基本4,000万円で来年度予算案を作り、教育委員会議で先生方の希望を聞いて後2,000万円の上積みをして、6,000万円以内で来年度の予算を組む方向で考えたい。

### (3)「教育日本一のまち」のPRブックレットについて

○事務局（教育政策課長）より説明。

- ・教育ジャーナル2015年7月号で、教育日本一をめざす藤枝市の教育環境の記事が掲載されており、市長から教育日本一を標榜する池田市でもこのような冊子が作成できないかという話があり、池田版冊子を作成。
- ・学びの環境づくりとして藤枝市の取り組みが掲載されているが、池田市の取り組みはそれ以上と考えている。10年以上取り組んでいる教育特区の取り組みでは、外部英語検定やオンライン英会話、電子黒板配置、プログラミング学習など、当初から英語活動と科学情報の時間を続けており、進化し続けている。また、近年取り組んでいる小中一貫教育においても、5つの学園がそれぞれにつながりを持って教育活動に取り組んでおり、学園ごとに地域とのつながりも大切にしている。放課後居場所づくりのキッズランドの活動も府内で模範的な取り組みとなっていると府から聞いている。家庭学習への支援については、中学生を中心に実施しているが、小学生まで拡充している。通級指導教室は、本市は小・中学校で行っていたものを公立・私立幼稚園まで拡充しているところ。幼・小・中学校の公開研究会の開催については、極めて全国的に珍しく、すばらしい授業力向上の取り組みであると自負している。

<市長>

- ・リーフレットについては、これから詰めていくことになるが、どのように感じるか。

<委員>

- ・市民の方に実感していただけるすばらしい取り組みだと思う。
- ・単に教育だけでいいのか、まちづくりとの連携まで広がれば素晴らしい。

<委員>

- ・条例やビジョンなどはなくし、アピールしたいところだけにした方が良い。
- ・日本初、大阪初、北摂初など数字などでアピールしても良いと思う。
- ・字が多いように思う。写真を増やしてはどうか。

<委員>

- ・発達障がいの子どもが1割を占めるというのはかなり多いので、発達支援にも力を入れてほしい。兄弟格差を解消する取り組みとなれば、池田に引っ越そうかというインセンティブとなるのではないかと。

<委 員>

- ・池田市の独自性といった他にやっていないところのアピールができれば良い。
- ・社会とのつながりの記述について、池田の企業とのつながりに言及してPRしてはどうか。

<市 長>

- ・デザイン的な効果、色彩、メリハリについてブラッシュアップが必要。内部的な公用車の事項は再考の余地があるだろうし、保護者や市民にインパクトを与えるアピールをどのようにするかが重要。
- ・教育委員の先生方には予算の編成についても反映できるような取り組みをしていきたい。

**4. 閉会**